

(研)

説 明

- 1 分 類 日本鳥類図鑑による
- 2 参考文献 日本鳥類図鑑 野外鳥類図譜
- 3 「渡り」 (夏)とあるのは夏鳥で春季南方より渡来、本州で蕃殖し秋季南方に去るもの
(留)は留鳥で年間を通じて棲息地の着しい差異のないもの
(冬)は冬鳥で北海道 北で棲殖し秋季本州に渡来翌春北方に去るもの
(漂)は漂鳥季節的に多少棲息地を変えるもの
(旅)は旅鳥で春と秋本土を通過し蕃殖地と越冬地の間を渡り、本土で蕃殖も越冬もしない種類
(迷)は迷鳥で渡りの途中暴風雨に吹き飛ばされたり近似種に混じつて偶然渡来したもので珍種である。
- 4 「蕃殖」 O印のものが蕃殖を確認した種類で、この外確実に蕃殖すると思われるものも相当ある。
- 5 「分布」 目撃した順に(多、普、少、稀)に分類した。
- 6 「棲息環境」 棲息環境を確然と区別することは困難であるが主として一番多く目撃した環境を記載した(村)は村落付近、(森)は森林で4.5米以上の雑木から10米以上の喬木を含む密主疎生林、(灌)は灌木林で高くとも4.5米迄の灌木である。(草)は草原で荒地、開拓地等の草の繁茂する所。(亜)は亜高山で本県では1,400米~1,500米以上の山帯である。
- 7 嶺南方面と海鳥については調査研究が未了の為め一部しか記載出来なかつた。

福井県地方の衛生上有害な動物について (その6)

フィラリヤ症浸淫地方の蚊族調査

福井県衛生研究所 寺出俊定

夏にはつきものの蚊による害は、人畜より吸血して苦痛を与えたり、時には伝染病の媒介者となる事である。

蚊が媒介する人の伝染病には、ウィールスによつて起る日本脳炎、デング熱、黄熱、マラリヤ原虫によつて起る三日熱マラリヤ、四日熱マラリヤ、熱帯熱マラリヤがあることは周知のところであるが、糸状虫によつて起るフィラリア症、(糸状虫症)も蚊によつて媒介される疾病の一つである。

日本で流行している糸状虫症にはバンクロフト糸状虫症とマレー糸状虫症があるが、共に急性期には熱発作を起し、慢性になると象皮病を起す。視虫はリンパ腺なりにより、仔虫が夜間血中に現れて、これが蚊の吸血によつて蚊の体内で发育して、その蚊が人を刺すことによつて仔虫が別の体内に侵入して感染を起すことになる。

我が国での流行地の多くは九州などの暖地であるが、新潟、青森、岩手県などでも流行がみられ、本県でも既に勝山病院の坪田医師により勝山地方に本病の存在する事が報告されている。

昭和29年7月、阪大微生物研究所の森下教授らにより大野、勝山地方のフィラリア症の調査が行なわれたが、それと前後して同地方の蚊族の調査を行うことができたので不十分ながら結果を報告しておきたい。

採集に協力いただいた当時の勝山高校生物クラブ員の諸君、並びに蚊の同定に当つて種々御指導を得ました明倫中学校教諭 寺角寛氏に衷心より謝意を表します。

< 採集場所と方法 >

調査は昭和29年7月下旬より8月下旬の約1ヶ月間に勝山近辺の松ヶ崎、細野、戸倉、郡、発坂、本郷、勝山の7地区において、屋外で二重蚊帳を使用して延べ8回の夜間採集を行った。採集時間は、場所による違いはあるが大体午後7時より翌朝5時まででその間1~2時間毎の採集蚊を区別し、同時に気温、湿度、風速なども測定した。

< 採集結果 >

期間中に採集した蚊の種類及び総数は(表1)の通りで、総数1057頭、5属12種に分類された。

(表1) 勝山地方の蚊の夜間採集成績

種	名	採集個体数
ハマダラカ属		
Genus Anopheles		
シナハマダラカ	Anopheles hyrcanus sinensis	82
ヤマトハマダラカ	A. lindesayi japonicus	3
イエカ属		
Genus Culex		
アカイエカ	Culex(Culex) pipiens pallens	539
コガタアカイエカ	C. (C.) tritaeniorhynchus	277
カラツイエカ	C. (C.) bitaeniorhynchus	8
セシロイエカ	C. (C.) whitmorei	5
シロハシイエカ	C. (C.) vishnui	8

(研)

ヤブカ属		
Genus Aedes		
ヤマダシマカ	Aedes(Stegomyia) flavopictus	2
ヒトスジシマカ	A. (S.) albopictus	3
キンイロヤブカ	A. (Aedimorphus) vexans nipponii	2
クロヤブカ属		
Genus Armigeres		
オウクロヤブカ	Armiges(Armigeres) subalbatus	126
チビカ属		
Genus Uranotaenia		
フタクロホシチビカ	Uranotaenia bimaculata	2

今回の採集結果からみれば、勝山地方の夜間活動性の蚊の大多数がイエカ属の2種即ちアカイエカとコガタアカイエカによつて占められ、それに続いて朝夕活動するオウクロヤブカ、夜間活動性のシナハマダラカの順になつている。

人間を「おとり」とした夜間採集結果のみから同地方の蚊族の総てを知り得ない事は、当然であるが、アカイエカ、コガタアカイエカ等の衛生上甚だ重要な蚊の多いことは注目すべきである

地区別の採集結果と採集時の気象状況については(表2~表9)に示したが、各地共調査回数が少いために採集される蚊の種類、或は時間的な「動き」については考察し得ないと考えられるので、こゝではその記録を記しておくに止めたい。

(表2) 勝山市荒土町松ヶ崎、採集年月日 昭和29年7月21~22日

時間 種名	8~9	9~10	11~12	0~1	2~3	4~5	計
アカイエカ	3	8	12	6	5	1	35
コガタアカイエカ	1	3	0	2	0	2	8
カラツイエカ	0	1	0	0	0	0	1
シナハマダラカ	4	1	2	0	2	0	9
計	8	13	14	8	7	3	53
気温(°C)	25	26	23.5	23	22	22.5	
湿度(%)	84	84	90	90	90	85	
風速(m/sec)	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	

(研)

(表3) 勝山市荒土町細野 採集年月日 昭和29年7月27~28日

時間 種名	7~8	9~10	10~11	11~12	1~3	4~5	計
アカイエカ	61	24	9	0	10	0	104
コガタアカイエカ	11	5	5	0	0	5	26
カラツイエカ	1	2	0	0	0	0	3
セシロイエカ	1	0	0	0	0	0	1
オウクロヤブカ	18	6	1	0	2	14	41
ヤマダシマカ	0	0	0	1	0	0	1
シナハマダラカ	0	0	0	1	0	1	2
計	92	37	15	2	12	20	178
気温(°C)	24	23	24	—	23	24	
湿度(%)	81	90	90	—	90	95	
風速(m/sec)	2~3	2~3	2	—	1~2	2~3	

(表4) 勝山市荒土町戸倉 採集年月日 昭和29年8月1~2日

時間 種名	6~8	8~9	9~10	12~1	4~5	計
アカイエカ	8	29	10	1	10	58
コガタアカイエカ	5	0	0	0	1	6
オウクロヤブカ	34	4	6	4	9	57
シナハマダラカ	2	0	0	0	2	4
計	49	33	16	5	22	125
気温(°C)	26	26	25	23	22	
湿度(%)	78	78	81	80	81	
風速(m/sec)	0~1	0~1	0~1	0~1	0	

(表5) 勝山市村岡町郡 採集年月日 昭和29年8月6~7日

時間 種名	8.5~	9.5~	11~12	0~1	1~2	2~4	4~5	計
	9.5	10.5						
アカイエカ	3	4	2	2	1	3	0	15
コガタアカイエカ	5	4	0	0	2	0	0	11
シロハシエカ	0	1	0	0	0	0	0	1
カラツイエカ	1	0	0	0	0	0	0	1
オウクロヤブカ	1	1	0	0	0	1	0	3
ヒトスジシマカ	0	0	0	0	0	0	1	1
シナハマダラカ	0	2	1	0	0	0	0	3
計	10	12	3	2	3	4	1	35
気温(°C)	24.5	23	22	22	22	22	21	
湿度(%)	100	100	100	100	100	100	100	
風速(m/sec)	0	1	0	0	2	1	1	

(表6) 勝山市鹿谷町発坂 採集年月日 昭和29年8月9~10日

時間 種名	7~8	8~9	9~10	11~12	0~1	1~2	2~3	3~4	4~5	計
	アカイエカ	8	21	13	6	9	5	4	1	1
コガタアカイエカ	0	5	4	11	4	1	1	2	3	31
カラツイエカ	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
シロハシエカ	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
オウクロヤブカ	4	1	0	2	0	0	0	0	0	7
ヒトスジシマカ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
フタクロホシ チビカ	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
シナハマダラカ	3	2	2	3	0	2	0	2	6	20
計	15	29	20	22	18	8	5	5	11	133
気温(°C)	24	23	22	22	-	22	21	21	21	
湿度(%)	93	95	100	98	-	100	96	100	100	
風速(m/sec)	0	0.5	1	1	-	0	0	1	0	

(表7) 勝山市鹿谷町本郷 採集年月日 昭和29年8月12~13日

時間 種名	8~9	9~10	10~11	11~12	1~2	2~3	3~4	4~5	計
アカイエカ	48	13	0	38	16	21	7	3	146
コガタアカイエカ	23	21	0	51	12	13	10	4	134
カラツイエカ	0	1	0	0	0	0	0	0	1
シロハシエカ	0	2	0	0	1	0	0	1	4
オウクロヤブカ	6	0	0	0	0	0	0	2	8
ヒトスジシマカ	1	0	0	0	0	0	0	0	1
シナハマダラカ	6	2	0	3	0	8	0	6	25
ヤマトハマダラカ	0	0	0	1	0	0	0	0	1
計	84	39	0	93	29	42	17	16	320
気温(°C)	27	27	27	26.5	-	25	23	22.5	
湿度(%)	80	80	75	70	84	100	100	100	
風速(m/sec)	0	1	5	1	1	0.5	1	0.5	

(表8) 勝山市 採集年月日 昭和29年8月21~22日

時間 種名	7~8	8~10	10~12	0~1	1~3	4~5	計
アカイエカ	26	7	5	3	10	17	68
コガタアカイエカ	12	4	6	2	3	6	33
シロハシエカ	0	1	0	0	0	0	1
セシロイエカ	0	0	0	2	0	0	2
オウクロヤブカ	3	0	0	0	0	2	5
シナハマダラカ	6	2	3	0	1	0	12
ヤマトハマダラカ	0	1	0	0	0	0	1
計	47	15	14	7	14	25	122
気温(°C)	24.5	23	22	21	21	21	
湿度(%)	100	90	90	-	-	90	
風速(m/sec)	0	0	0	0	2	0	

(研)

(表9) 勝山市荒土町細野 採集年月日 昭和29年8月25~26日

時間 種名	7~9	9~11	10~11	11~12	0~1	1~2	3~5	計
アカイエカ	8	5	16	1	2	1	21	54
コガタアカイエカ	13	1	2	3	2	1	6	28
セシロイエカ	0	0	0	0	0	0	2	2
オウクロヤブカ	6	0	0	0	0	0	0	6
ヤマダシマカ	1	0	0	0	0	0	0	1
シナハマダラカ	2	0	1	0	1	0	3	7
ヤマトハマダラカ	1	0	0	0	0	0	0	1
計	31	6	19	4	5	2	32	99
気温(°C)	24	23	23	23	23	22.5	22	
湿度(%)	93	100	100	100	100	100	100	
風速(m/sec)	2	3	1.5	4	3	4	2	

(採集種についての一般的な生態)

(1) シナハマダラカ

本県では多産する。主なる発生源は広い範囲にわたる地表水であり、水田、溝、沼沢等で、本種は夜間活動性で三日熱マラリヤを媒介するが、人や家畜のフィラリア症、日本脳炎の媒介者として注目すべきである。

(2) ヤマトハマダラカ

本県では普通に分布する。発生場所は湧水や山間の溪流で病原体との親和性では、あまり問題にならないものようである。

(3) アカイエカ

夜間吸血種としてコガタアカイエカ、シロハシイエカと共に全国に多数分布する。発生地は主として水田、沼やドブ等で、汚い水たまりや雨水でうすめられた野壺から多数発生する。

病原体との親和性ではフィラリア症と最も密接な関係を持ち、日本脳炎の媒介蚊としても注目すべきである。

(4) コガタアカイエカ

水田地帯や溝に多発する種類で日本脳炎の媒介蚊として最も重要なもので、フィラリア症の伝搬にも加わるものである。盛夏に多数発生しその活動期間の短いのが特色である。

(5) カラツイエカ

アカイエカよりやや大形種で夜間によく人を刺し、水田、溝、沼水に発生する。本県では普通に産する。

(6) セシロイエカ

(7) シロハシイエカ

両種共山間地方に多いようで、発生地はセシロイエカは水田、溝等で本県では普通にみられる。フィリア症の媒介にはアカイエカと共に重要である。夜間吸血性を示す。

シロハシイエカは山間の冷たい水に多く発生し本県でも多産するが病原体の媒介には関係がないようである。

(8) ヤマダシマカ

本種の分布は広いが発生量は少い。竹筒や樹洞など自然の水溜りや人工的な容器の水に発生し昼間吸血する。

(9) ヒトスジシマカ

分布北限は仙台までで本県では普通に産する。人工的な容器の水に発生し成虫は藪や墓地などで激しく吸血する。デング熱媒介蚊として日本で最も注目すべきものである。昼間活動性である。

(10) ケンイロヤブカ

全国的に発生するが東北、北海道に特に多い。本県では普通にみられるもので成虫は好んで牛馬より吸血する。水溜りや人工的な容器に発生し成虫は藪などに多数棲息する。昼夜共に活動する。

(11) オウクロヤブカ

本州以西で多産し本県でも多数発生する人よりも吸血するが好んで牛馬等を刺す。汚い水槽や肥料溜りから発生し朝夕に活動する。日本脳炎の媒介にも関係あるようである。

(12) フタクロホシチビカ

最も小形のもので本州、九州に産する。本県では普通に発生をみる。本種の幼虫は竹筒や墓石など人工的な容器の水にみられる。病原体との親和性は明らかでない。

この調査は疫学的見地からフィリア流行地としての勝山地方の蚊族の様相を知るにあつたが夜間採集と云う困難性も伴つたために回を重ねることができず不十分な状態で終つてしまつた。それと共に蚊成虫体内からフィリア仔虫の検出も当初の目的の一つであるが検出は不成功に終つたので、この点は再度の調査によつて明らかにしてみたいと考えている。

参 考 文 献

佐々学(1954)

- 1 日本 の 蚊 (衛生害虫叢書Ⅱ): DDT協会、東京
- 2 大森南三郎: 福井県産 蚊族の生態、プリント
- 3 寺角 寛(1957): 竹藪内で採集できる蚊族の竹藪環境の利用方法、福井県博物同好会会報 第四号 P16 ~ 18